

あいち病害虫情報 最新情報

令和元年8月16日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

8月下旬は、気温がかなり高くなる見込み

名古屋地方気象台8月15日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。降水量は、ほぼ平年並の見込みです。

台風10号により冠水等の被害を受けたほ場では、速やかに排水を図るとともに、必要であれば薬剤防除を行いましょ。う。

ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、適期防除を心がけましょ。う。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理に留意ましょ。う。

イネ紋枯病

7月下旬に行った巡回調査におけるイネ紋枯病の発生量は、平年並でした。しかし、一部の地域ですでに紋枯病の発生量が多いほ場が見られます。また、向こう1か月の気温は高く、本病の発生に好適な気象条件が見込まれており、急激に上位葉に伸展する可能性があります。これから出穂期を迎える普通期栽培品種では、ほ場内を観察し、発生状況に応じて、8月2日発表の「イネ紋枯病情報第1号」を参考に防除ましょ。う。

イネ白葉枯病

尾張地方の一部地域で白葉枯病が発生しています。台風による強風と大雨や冠水によって発生が拡大する恐れがあります。

今年白葉枯病が発生したほ場では、一次伝染源となるサヤヌカグサなどイネ科畦畔雑草の除草、稲刈り後の被害ワラの除去、次年度の育苗時にプロベナゾールやチアジニルまたはイソチアニルを含む箱施薬（Dr. オリゼフェルテラ粒剤、ブイゲットフェルテラ粒剤、ルーチンエキスパート箱粒剤など）による防除を行いましょ。う。

斑点米カメムシ類

斑点米カメムシ類の発生量は、水田内、畦畔雑草ともにやや少ない状況です。また、予察灯における誘殺数は、一部地域でアカスジカスミカメやナガカメムシ類が多いですが、おおむね平年並の状況です。

あいちのかおりなどの普通期栽培品種は、これから出穂を迎えます。畦畔やほ場内を観察し、発生状況に応じて適宜防除ましょ。う。

ウンカ類

セジロウンカの水田内での発生量は、やや少ない状況です。

トビロウンカは、県内6か所に設置した予察灯には誘殺されていません。ただし、日本植物防疫協会提供の気象再解析データによる飛来解析から愛知県には6月初旬に飛来した可能性があるため、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら収穫前日数に留意して防除ましょ。う。

コブノメイガ

8月上旬の巡回調査において、県内各地の水田でコブノメイガによる被害や幼虫の寄生を確認しています。止葉における被害が多いときは収量に影響する可能性があるため、すでにコブノメイガによる被害を確認している場合は、8月1日発表の「コブノメイガ情報第1号」を参考に防除ましょ。う。

ダイズのオオタバコガ、ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

長梅雨の影響でダイズの播種が全体的に遅れたため、ダイズほ場内でのオオタバコガの発生量は多くありません。また、安城市及び西尾市に設置したフェロモントラップにおける誘殺数は平年よりやや少なく、豊田市では平年並に推移している状況です。今後、発生量が増えることが予想されますので、ほ場内を観察し、幼虫の発生を確認したら速やかに防除をしましょう。

ダイズのハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並に推移しており、8月上旬に行った巡回調査ではまだ寄生が確認されていません。ほ場を観察し、白変葉の発生に注意しましょう。

昨年からシロイチモジヨトウによるダイズへの加害が見られるようになり、今年もすでにダイズほ場で寄生を確認しています。今後、発生が増えることが予想されるため、発生状況に注意しましょう。

果樹の病害

台風10号の通過による強風を伴う雨があったため、モモせん孔細菌病が多発する可能性があります。本日発表の「モモせん孔細菌病情報第1号」を参考に、枝病斑の除去や農薬による秋季防除を実施し、次作への伝染源量を減らしましょう。

その他、カンキツかいよう病、カキ炭疽病やうどんこ病、ナシでは黒星病、ブドウではべと病なども風雨により広がるので、今後の発生状況に注意しましょう。薬剤防除を実施する場合は、収穫期に入っている品目では収穫前日数に注意しましょう。

果樹の害虫

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、西三河地域でやや多い状況です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなります。収穫前日数に注意して薬剤防除しましょう。

豊橋市、新城市に設置した果樹カメムシ類の予察灯における誘殺数は、豊橋市のツヤアオカメムシは平年並ですが、その他のカメムシ類はやや少ない状況が続いています。今年も果樹カメムシ類の餌となるスギ・ヒノキ球果の量はやや少なく、新世代成虫の発生量もやや少ないと予測しています。しかし、7月下旬に実施したヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘（吸汁した跡）数による離脱時期予測によれば、早いところでは既にヒノキ林から離脱し、成虫の果樹園への飛来が始まっていると考えられるので、ほ場での発生状況に注意してください。

なお、県内各地におけるヒノキ林からの離脱時期等は、8月2日発表の「果樹カメムシ類情報第3号」を参照してください。また、スギ・ヒノキ林の近くの果樹園では、台風通過などで突発的に飛来が急増することがあるので、注意してください。

カンキツほ場に設置したチャノキイロアザミウマの粘着トラップにおける誘殺数が南知多町、蒲郡市ともにやや多い状況です。最新の気象データから予測した成虫発生ピークは表のとおりです。成虫発生ピークが防除適期なので、表を参考に防除を実施しましょう。

表 チャノキイロアザミウマの成虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武 [※]
第5世代	8/15	8/16	8/11	8/18	8/12	8/17	8/16	8/16	8/15	8/21	8/24
第6世代	9/2	9/3	8/28	9/5	8/29	9/5	9/3	9/3	9/2	9/9	9/18

※稲武はそれぞれ第4世代、第5世代のピーク日。

野菜・花き類はチョウ目害虫に注意！

豊橋市及び田原市のキャベツほ場に設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が、7月以降多い状況が続いています。ほ場や育苗ほでの発生に注意しましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊川市のキクほ場で多く、豊橋市のキャベツほ場でやや多い状況が続いています。ほ場や育苗ほでの発生に注意し、適宜

防除しましょう。

野菜ほ場に設置したハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、南知多町で多い状況です。例年、8月から9月にかけて発生量が増加します。ほ場周辺のサトイモやダイズほ場の被害状況を参考に、ほ場や育苗ほでの発生に注意して適宜防除しましょう。

コナガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並です。ほ場や育苗ほをよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

ハイマダラノメイガは、発芽、定植直後に加害されると、被害が大きくなります。は種から定植時に薬剤を処理するなどして、初期被害を防ぎましょう。

育苗ほでは防虫ネットを設置してチョウ目害虫の飛来を防ぎましょう。

イチゴのハダニ類

イチゴの育苗ほでハダニ類の発生量が多い地域があります。本ほでのハダニ類を抑えるには、育苗段階での防除を徹底することが重要です。気門封鎖型農薬などで防除しましょう。本ほにハダニ類を持ち込まないように、定植直前には必ず防除を実施しましょう。

トマトのコナジラミ類

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミ、トマト黄化病の病原ウイルス（ToCV）を媒介するタバココナジラミ及びオンシツコナジラミの本ほへの侵入を防ぐために、定植前に施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意して、早期防除に努めましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室 TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820
